

お客様それぞれの サクセスを目指して

RICOH スクラムパッケージ

お客様活用事例 VOL.9

Case. 介護・福祉業

介護老人保健施設 わかば 様



介護老人保健施設 わかば
介護部 介護副部長
榎本 孝志 様

みまもりカメラとベッドセンサーで安全の確保と職員の負担軽減を実現

わかば様は、小田原市で1998年に開設された介護老人保健施設で、病院退院後のリハビリが必要な高齢者が多く入所されている施設です。同施設では入所者の安全確保と職員の負担軽減のために、『RICOH 入所者みまもり業務支援パック』を導入しています。RICOH 入所者みまもり業務支援パックは、高精度なベッドセンサーとカメラを連携させて入所者の安全を守り、介護業務の負担を軽減する統合みまもりシステムです。

医療法人尽誠会 山近記念総合病院
介護老人保健施設 わかば 様

- 設立：1998年9月
- 施設：介護老人保健施設わかば
- 所在地：神奈川県小田原市八幡3-6-22
- 職員数：60名
- 床数：90床
- URL：<https://www.yamachika-hp.jp/>
- ご活用ソリューション：RICOH 入所者みまもり業務支援パック



背景

- 1 転倒による**ケガのリスク**を減らしたかった
- 2 コールが重なると**対応が大変だった**
- 3 自立に必要な動作の**リスク**と**介助のバランス**が難しかった

解決

- 1 **動きの経緯や状況を見て確認**ができるようになった
- 2 **コールの優先順位**がつけやすくなった
- 3 観察がしやすくなり
自立支援に役立った

みまもりベッドセンサー&みまもりカメラで 「できること」を増やす 老人健康保健施設 わかば 様

介護老人保健施設 わかば
介護部 介護副部長
榎本 孝志 様



それぞれの自立度に合った 自立支援が求められる

わかば様は、1998年より神奈川県小田原市で運営されている介護老人保健施設です。同施設では、入所者の安全と介護職員の業務負担の軽減のために、RICOH 入所者みまもり業務支援パックを導入しています。

同施設の介護部 介護副部長の榎本孝志様は、施設でのケアのポイントについて、「利用者に合った適切なケアをするのが大切です。自立支援が目的なので、ご自身ができることはなるべく任せたいのですが、ご本人が思うほどに体の機能が追いつかず、以前はできていたことが難しくなっている利用者も多いです。安全面を考えても、失敗や転倒によるケガのリスクがあるので注意が必要です」と話し、利用者それぞれの自立度に対して見極めが必要なこと、その難しさを挙げています。

自立度に合わせた 効果的な介助を行う

RICOH 入所者みまもり業務支援パックを紹介された際の感想について、榎本様は、「便利そうな印象がありました。利用者の動きが難しい部分をタイミングよく察知してケアできれば、もっと安全に『できること』が広がるのではないかと思います」と話します。システム導入後の利用について伺うと、「施設に来て新しい環境に慣れていない方や認知症の方に利用しています。センサーが鳴り、モニターを見ればどのような経緯で移動しようとするのかがわかり便利です。たとえばセンサーが鳴ったタイミングでケアを繰り返して、本人が1人でできるようになれば、そろそろ1人でも大丈夫かな、とモニターの画面で確認できるようになります。できることが増えるのはよいと思います」と説明し、介護老人保健施設ならではの自立に向けたサポートに利用するメリットを強調します。

モニターを確認して 最適な対応を行う

介護職員の水野沙南様は、「日中は職員の数も多いため、何かあってもすぐに対応できますが、夜間帯では対応が重なれば対応するのに大変な場合も出てきます。以前は鳴りだけのセンサーだったので、もし転んでいたらどうしよう、と不安な気持ちになることもありました。今はセンサーが鳴ってモニターを見れば、安全かどうかを確認できるので、すごいなと思います。日中でもモニターで大丈夫かどうかを確認できるようになりました」と、鳴りだけのセンサーとモニターで状況確認ができることの大きな差を実感しています。

水野様は、「ふだんは自分で歩いてトイレに行けても時々失敗してしまうような方は、モニターを見て確認ができます。カメラの映りもいいですし、ご本人が何をしようとしているのかを細かく観察できるので、1人でできそうであればモニターで見守り、もし危なそうであれば駆けつけます。今後は、ベッドから車椅子に移すことが大変な方の体重測定にも使えばよいと思います」と、体重を精密に測定できるセンサーの応用を考えています。



自立と介助のバランスを とるために役立てる

榎本様は「導入以前は、複数のコールが重なってしまうと、優先順位をつけながら安全にそれぞれの利用者に対応するのが大変でした」と振り返ります。また、介護業務の負担軽減以外のメリットとして、「職員からあまり介助されたくないものの、ふらつきがあり心配な方もいます。特に入所して施設に慣れない段階では、夜間帯のトイレやきちんとベッドに戻って寝られるかをモニターで確認できました。こうして職員の介入を減らし、ご本人も落ち着いて生活できるようになりました」と、利用者の精神面・心理面の負担軽減にも役立てています。RICOH 入所者みまもり業務支援パックは、自立と介助のバランスをとるツールとしても有効に利用されています。

〈RICOH 入所者みまもり業務支援パック〉 入所者の活動状況のモニタリングで、より最適な自立支援へ



ベッドの脚部に設置したベッドセンサーが、入所者の動きを検知しアラームでお知らせ。サービスステーションでみまもりカメラの映像を確認しながら、必要に応じた対応を行う。

※本事例カタログ内の説明画面と実際の画面の色とは、印刷の関係で多少異なる場合があります。 ※ 詳しい商品・サービス等の内容については、販売担当者にご確認ください。
※本事例カタログに記載の会社名および製品名・ロゴマークはそれぞれ各社の商号、商標または登録商標です。

RICOH
imagine. change.

リコージャパン株式会社
東京都港区芝3-8-2 芝公園ファーストビル
〒105-8503

<https://www.ricoh.co.jp>

●お問い合わせ・ご用命は・・・